

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（1月定例会）会議録
開催日時	平成27年1月19日（月曜日）午後3時から5時30分まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、内田副議長、岩崎委員、川崎委員、木下委員、操野委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野委員 事務局：山本課長、吉田係長、神田主査（傍聴 1名）
議題	(1) 今後の社会教育行政の運営体制について (2) 平成27年度都市社連協の事業計画について (3) 委員研修会について (4) その他
配布資料	資料1 平成27年度都市社連協総会関係資料 ・第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会に関するアンケート調査用紙 ・とうきょうの地域教育No.118 ・ニュースレターNo.16
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
平成26年12月定例会議の会議録を承認する。	
議題（1）今後の社会教育行政の運営体制について	
※小委員会の報告	
・日時：12月24日（水曜日）3階会議室 午後1時から3時	
・参加者：須永、木下、服部、原、沼本、矢野、森田の各委員	
○議長：	
小委員会での最終調整を経て、提言を確定した。1月6日（火曜日）に正副議長で教育長に提出をした。懇談の時間を得たので、提言の内容について説明をし、今後、教育委員の方との懇談の機会がもてればという意向を伝えた。今後、教育委員の方たちとの懇談についても皆さんと検討していきたいと思う。	
副議長：	
提言の内容についてはご理解いただけたと思う。地域で活動する一人の意見として、ひばりが丘公民館から正規職員がいなくなり非常勤の専門員だけになることについて、単なる場所ではなく、地域のよりどころになれる公民館にするためには、正規職員の配置が必要だとお伝えした。	
○事務局：	
この提言は、1月27日の教育委員会に報告された後に、公民館運営審議会委員と図書館協	

議会委員に配布する予定である。

○委員：

提言をどのように生かすか考えていく必要がある。今回は組織の問題を中心に提言したが、各論に関しては、十分検討できていないところがあると思う。

○委員：

今回の提言を基にして、今後また、具体的な施策を検討していけばよいと思う。

○委員：

社会教育委員の活動として関係者との懇談や調査等も行いながら、今回の提言を生かした取り組みを進めていければと思う。

議題（2）平成27年度都市社連協の事業計画について

※事務局より配布資料1「平成27年度都市社連協総会関係資料」に沿って、説明。

○議長：

次年度会長市として1月22日(木)の役員会で事業計画等について提案する。予算案等は事務方で整えるので、統一テーマと交流大会の概要について検討していただきたい。役員としては、会長の他会計1名を選任する必要がある。

「統一テーマについて」

○議長：

昨年度検討した「生涯学習推進指針」で示された循環型の学習社会のイメージを統一テーマに活かしたらどうかと思い、「学び、行動する市民が創造する循環型の地域学習社会を目指して」という統一テーマ案を考えてみた。

○委員：

交流大会のグループでの話し合いの時に、循環型学習社会のことについて話したが、かなり反響があった。自分たちの検討した内容について他市の委員の方も交えて議論を深めるのは良い事だと思う。

○委員：

研修会や大会に何回か参加したが、社会教育委員自身が実践する話を聞く機会が多い。しかし、自分たちが実践するだけでなく、社会教育委員として市民が行動するために何ができるのかといった活動も必要ではないか。他の市町村で話し合いするのには、このテーマは良いのではないかと思う。

○委員：

これを元に、新しい考え方を発表してくれる人も出てくるのではないか。

委員：

社会教育委員の活動報告にあまり意義を感じないのは、社会教育活動者としての委員の活動をバラバラに聞いているからだろう。地域によって、市民のニーズや条件も違うこと

を考えると、それぞれの活動報告内容にこだわっていたら進歩がないと思う。委員自身が活動実践を通して、様々な市民の立場や意見を理解し大切にすることは必要だが、自身の社会教育活動と社会教育委員としての活動とを分けて、考えるべきだと思う。委員としての関心や視野はもっと幅広く、公民館、図書館、更には文化財に関することにも広げて、議論してもよいのではないだろうか。

○委員：

社会教育委員活動と自分の地域活動とを分けるというが、諮問機関として考えた意見をまとめたら、委員それぞれがまたその意見を踏まて、自分の活動の中で人材育成や社会教育活動を展開していくことになるのだろう。委員の活動と自身の活動は相互に関係を持ち発展していくのだと思う。

委員：

地域で社会教育活動をしているからこそ、公民館にも図書館にも関心が高くなり、西東京市の社会教育に関わることが見えてくる。社会教育委員の会議での活動を通じ知らなかった取り組みを聞かせてもらうことで、視野が広がる。社会教育委員だから、お祭りの実行委員をやらなくてはならないということではなく、自分の関心や活動が広がりの結果として、新たな地域活動に参加をしていくことになるのだと思う。

○議長：

統一テーマを決めているが、各市町村の社会教育委員が、このテーマに沿って1年間活動できているのかという疑問もある。ブロック研修もこのテーマに沿って企画するとあるが、統一テーマの縛りがあるとブロックの独自性を生かした研修を企画しづらい点もあると思う。自分も副会長になるまでは考えたことがなかったが、都市社連協における統一テーマについては、交流大会のテーマとして決めるが、ブロック研修などでのテーマの扱いは緩やかに考えるのはどうだろうかとも思う。

○委員：

統一テーマの役割そのものを、議論する余地はあるのか。統一テーマは、無くすことも可能なのか。

○議長：

あまり、議論をされないまま来ている。

○委員：

実際には、統一テーマとブロック研修会のテーマとの関連はあまりない企画で実施されているように思う。

○議長：

サブタイトルがいるとしたら、統一テーマとしては、「学び行動する市民を支える社会教育」とし、サブタイトルとして、「循環型の地域学習社会を目指して」という形も考えられないか。

○委員：

「行動する」という部分を、「実践する」にしても良いと思うが。

○委員：

サブテーマとして、そのために、社会教育委員としては何が出来るか、など入れてもよいのではないか。

○委員：

統一テーマはこのままで良いのではないか。サブタイトルはいらない。他市の意見や考え方を聞いて、それからの決定でも良いのではないか。

○委員：

テーマはシンプルに出した方が良いのではないか。

「交流大会について」

○委員：

サブテーマにある循環型の地域学習社会のイメージが他市の社会教育委員にとって、違和感がなければよいと思うが。

○委員：

循環型地域学習社会の創造は、我々の委員活動で取り組んできた。この機会を捉えて、西東京市で考えていることを知ってもらい、他市の取り組みも聞いて今後西東京市の委員活動でも参考にしていくという意識が大切だと思う。

議長：

今のテーマ名は、学び、行動する市民を支える社会教育のイメージになっている。

委員：

地域学習社会を創造するということは、地域住民や次代の子どもたちが、主体となって創造するものだろう。

○委員：

社会教育委員や社会教育として市民を支える役割や仕組みを考えたらどうだろうか。

委員：

事前の調査も出来るのではないか。地域学習社会の創造に向けた仕組みや制度などについて比較もでき、討議も活発になるだろう。

○委員：

せっかくの交流会なので、ブロック研修会の議論や他市がどういう活動をしているかなど、それぞれの市の比較出来るものがあると分かりやすいと思う。

議長：

交流大会は、パネルディスカッションの形式で今考えている。関東甲信越静の研究大会でのパネルディスカッションを見ていると、フロアーが置き去りになってしまう感じがしたので、参加者が発言出来ることを重視したいと思う。

委員：

報告をしたパネラー同士でのやり取りではなく、会場とのやり取りを中心に行い、最後に、コーディネーターがまとめるという形がいいと思う。パネルディスカッションのテーマやパネラーが誰になるかにもよるが、コーディネーターの役割が大きいと思う。

○委員：

パネルディスカッションの前に、循環型、地域学習社会などの基本的なワードを整理してくれる話をしてもらうのも良いのではないか。

○委員：

循環型学習社会のイメージを共有するためにも、基調講演のようなものがあればよいと思う。

○委員：

ブロック研修会の報告者がパネルディスカッションのメンバーになることは出来ないのか。ブロック研修はブロックの内容で発表してもらって、その中から全体討議につなげていく。ブロック研修会に参加している人はすでに内容がわかっており、ブロック研修会での議論もコーディネーターに伝えられる。各自がそれまでに議論したことなのでみんな参加しやすいのではないか。

委員：

ブロック研修会の内容を統一テーマに関係したものでやってもらえればよいと思う。

議長：

ブロック研修と交流大会の連動については、今後ブロック幹事を交えた拡大役員会があるので、方向性がはっきりすれば、お話出来ると思う。統一テーマと交流大会については、今回の意見を基に、再度、事務局と正副議長で検討し、役員会での意見も踏まえ、次回会議で最終確認したい。

議題 (3) 委員研修会について

事務局：

3月の定例会の日程で研修会を実施し、研修会終了後に定例会を開きたい。公民館運営審議会委員や図書館協議会委員、社会教育関係職員にも呼び掛けて実施する。研修会の内容や講師の希望があれば出してほしい。

○委員：

研修会の機会に公民館運営審議会と図書館協議館の方にお越しいただいて、勉強をするのもいいのではないか。今まで、じっくりと話をする機会が無かったので、お互いにわからないところ等じっくり話を聞いてみるのもよいと思う。

○委員：

我々が、公民館、図書館に出向き話を聞くということは可能だろうか。施設見学を含めて、お話を聞かせてもらいに行くというのは建設的だと思う。

委員：

公民館と図書館は隣接しているところが多いので、良いと思う。

議長：

研修会と別に、今後の調査研究の一環として、そういった機会をぜひ検討したいと思う。

委員：

関東甲信越静研究大会で教育委員会制度の改定について話が出た。これにより西東京市の教育行政がどうなっていくのか、話を聞いてみたい。

委員：

今回の改正により大きな動きが教育行政全体にあるのではないかと予想される。

○委員：

教育委員会制度改定に関わる話となると、地方自治体関係者が良いと思うが、平成27年4月からの施行ということでは、この時期では具体的な話は出てこないのではないか。この改正によってどういう影響や変化があったかという実態については、研究者に話を聞くとしても、この制度が定着してからの方が良いのではないかと思う。

○委員：

学校教育支援も地域に期待されている。虐待の問題なども地域が支えなければいけない状況がある。以前は学校と社会教育がお互いわかっていた部分があったが、今は、なかなか学校との関係について難しさを感じることが多い。

委員：

以前研修会で金藤ふゆ子先生のお話を聞いたことがあるが、分かりやすくとても良かった。

委員：

金藤先生は、他の地域で放課後子供教室やコミュニティスクールの講演をされていたと思う。ただ、3月16日という日程に限ると都合がつくか心配である。

委員：

公民館運営審議会委員の上田先生は、川崎市の社会教育委員もされており、関東甲信越の研究大会でも西東京市の発表分科会にかかわっていただいた。西東京市の社会教育や社会教育委員の活動についても理解されていると思う。

○議長：

大学の先生は3月は忙しいと思うので、上田先生と金藤先生の2人を講師候補とし、まず上田先生を第1候補として3月16日（月曜日）午後実施で事務局に調整してもらおう。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（1月定例会）は終了する。

※次回会議 平成27年2月16日（月曜日）午後2時